

..... 編集後記 .....

◆ この冬は暖冬だと言われ、誰もがそう感じていたと思いますが、立春が過ぎてからつくばに雪が積もりました。雪の上をわたる冷たい風が身をさします。冷たい春が来ている、そんな感じです。

◆ 昨年の9月から10月にかけて、名古屋市科学館を会場に、中部地質情報展を開催しました。入場されたお客さんから、展示の案内書のようなものは有りませんかとしばしば質問されました。展示準備につくばを出発する前夜遅くまでかかって仕上げたポスターなどもありますので、とても案内書までは行きつかなかったことが心残りでした。随分遅れてしまいましたが、本号及び次号の地質ニュース誌上にささやかな解説を試みてみました。次回の地質情報展は島根県松江市で本年9月末から10月始めにかけて行う予定です。

◆ その、松江市で開催予定の地質情報展のことで、島根大学の先生方と打合せをした際に、島根大学では何人かの学生さんが地質ニュースを購読して下さっているというお話を伺いました。学会誌はちょっと難しいが、地質ニュースなら読めるとのこと。嬉しくて、本当は直接お礼をいいたいくらいでしたが、お会いする機会もありませんので、この場で触れておきます。ありがとうございます。周りの学友の皆さんにも薦めて下さい。

◆ 「現代地球化学の父：ゴールドシュミット」の第3章をお届けいたします。ゴールドシュミットが彼の学

位論文である「クリスチャニア地域の接触変成作用」の研究に取り組み始めて、26歳でオスロ大学の特別教授になり、その後1922年、火成岩の進化について考えを示したモノグラフを発表するまでの歩みが描かれています。

◆ 埼玉県深谷市といえば、かつて国会議員さんが急行を止めた駅として有名でした。私自身その恩恵を受けて、深谷駅で下車して実家に帰ったこともありましたが、深谷断層という名称からすぐにそれを連想してしまいました。しかし、ここでいう深谷断層は約80kmの長さがある、記載されているのは高崎から倉賀野付近の、群馬県内の地域です。反射法地震探査の結果と重力異常データから、深谷断層は東日本の中央構造線活断層系と見なせるというモデルが提案されています。

◆ 海洋科学技術センターの田中さんから、OD21の計画について、大変お忙しい中、ご寄稿いただきました。ありがとうございます。地質ニュースでは、最先端記事の掲載を常に心掛けております。地質学界、関連業界等にお知らせしたい記事がありましたら、是非ご投稿下さい。お願いいたします。

◆ 本誌編集委員会顧問をしていただいた高橋博さん(元防災科学技術研究所所長、元地質調査所)が、去る1月17日に亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建  
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・  
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・渡辺光次)  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3  
地質調査所 地質ニュース編集委員会  
事務局 Tel. 0298-61-3520  
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第546号	2000年	2月号
	定価¥785(本体価格¥748) 千実費		
2000年2月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ